

## 令和5年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

設定した課題に対して教職員全体で共通理解を図り、生徒の実態に応じた柔軟かつ効果的な取り組みにより、重点目標はほぼ達成できた。多様な生徒への対応についても教職員全体で情報共有し、SC・SSW や通級指導担当教員、外部の関係機関とも連携しながら、学校生活の様々な場面で支援することができた。

学習活動では、TNUD(となみ野ユニバーサルデザイン)として各教科の実践目標と具体的方策を設定し、有効だった方策は集約・共有を図った。特に、課題であった「質問しやすい雰囲気づくり」については、TNUD を意識した ICT 活用や授業展開の工夫により、アンケートでは、「できるだけ質問している」が昨年の 30%から 43%へと向上し、成果が見られた。

学校生活では、様々な場面で命の大切さや安全意識の定着を図った。スマホ利用については、特に「ながらスマホ」の危険性を啓発し、日頃の行動改善につなげた。また、生徒の発達の段階や抱える課題に即した講座を数多く実施した。アンケートでは「健康保持に対する意識が高まった」が 87%で、心身の健康や命の大切さについて、生徒が自ら考え、学ぶ機会を充実できた。

進路支援では、JST と年次が連携し、きめ細かな指導を継続した。要支援生徒には外部機関と連携し、進路目標を実現した。4 年ぶりの先輩講話や学校・企業見学など、計画的に進路意識の高揚を図った。インターンシップでは生徒の希望・適性を十分に把握し、実習先を確保できた。

特別活動では、アンケートを反映した行事の企画・運営を工夫することで満足度は 97%と高かった。今後は、より自主性を育むことが課題である。図書委員会では、図書館ニュース発行やポップ作りに加え、「一人一冊運動」を呼びかけ、一人あたりの貸出冊数を伸ばすことができた。

総合福祉科では、専門技術者による各種講座に加え、様々な年齢層との地域交流を継続し、生徒の福祉に対する理解を深めることができた。アンケートでは「福祉への興味関心が深まった」が 93%で、取り組みの成果が見られた。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) ユニバーサルデザインを意識した授業実践や校内研修を通して、より効果的な指導法を探る。また、履修不成立を減らす対策として、早期から担任と連携した面談や個別指導を行う。
- (2) 命の大切さや SNS について学ぶ機会を設定し、生徒会とも連携して粘り強く指導を継続する。また、生徒の抱える問題については SC や SSW と連携し、早期発見・対応に努める。
- (3) 就職希望者への支援は早い時期から JST と連携し、学校全体で行う。特別な支援が必要な生徒については支援体制を強化し、必要に応じて外部機関や進路先との連携を深める。
- (4) 生徒主体の特別活動を企画する。集団活動が苦手な生徒には年次と連携し、配慮ある働きかけをする。図書館は生徒目線の企画を工夫し、生徒が発信する活動を展開していく。
- (5) 外部との交流を継続し、福祉分野への興味・関心を深めるとともに、学んだ知識や技術を地域に還元する。

## 8 学校アクションプラン

令和5年度 となみ野高等学校アクションプラン				- 1 -	
重点項目	学習活動				
重点課題	①学習内容の理解・定着と学習意欲の向上		②授業改善の推進		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容について理解・定着の乏しい生徒が見られる。</li> <li>学習・授業に対する意欲の乏しい生徒が見られる。</li> </ul>				
達成目標	①学習・授業アンケートで「理解できるよう努力した」と回答した生徒の割合 90%以上		②互見授業アンケートで「意欲的に授業改善に取り組めた」と回答した教員の割合 90%以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における生徒とのコミュニケーションを深め、質問しやすい授業の工夫を目指す。</li> <li>適切な課題を設定し、確実な提出を促すことで学習内容の定着を図る。</li> <li>生徒によっては、通信制講座の活用など、多様な学習機会を確保できるようにする。</li> <li>タブレットの効果的な活用等、授業改善に取り組み、ユニバーサルデザイン化のさらなる推進を目指す。</li> <li>互見授業等を通して教員相互の意見交換を密にし、授業改善を図る。</li> <li>観点別評価の導入により、指導と評価の一体化を図り、生徒が主体的に授業に臨めるようにする。</li> </ul>				
達成度	① 91.8%(授業に真面目に取り組んでいる)		② 96.4%(互見授業で参考になることがあった)		
具体的な取組状況	<p>&lt;授業改善・教員研修等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの授業で、タブレットを始めICTを活用し、よりわかる授業に取り組んだ。</li> <li>互見授業を行い、互いに積極的に授業を参観して、よりよい授業改善に努めた。</li> <li>TNUD(となみ野ユニバーサルデザイン)として各教科の実践目標と具体的方策を設定し、互見授業を目処に授業で実践し、成果を確認した。</li> </ul> <p>&lt;生徒への働きかけ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>面接週間や年次集会等で、早期に授業に取り組む姿勢への意識付けを図った。</li> <li>次年度科目登録を通じて、進路の見通しを持たせるようにし、学習への意欲喚起を図った。</li> <li>欠課が多い生徒には、保護者と連携し早めに注意喚起を図り履修不成立の予防を図った。</li> </ul>				
評 価	A	目標を達成した	A	目標を達成した	
学校評議員の意見	ICT活用等によるユニバーサルデザイン化や互見授業による指導力向上などの授業改善が生徒の理解につながっている。教員と生徒が互いに高め合えたという印象だ。今後は、通信制やオンライン授業など、多様な学びを柔軟に提示し、履修不成立を減らして欲しい。				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒の増加に伴い、個に応じてよりきめ細かく学習の支援を行えるようにしたい。</li> <li>グループで意見を交わす、Jamboardを活用する、生徒が1対1で質問できるようにするなど、授業で生徒が質問や意見を気軽にできるような環境をさらに整えていきたい。</li> <li>欠課が規定を超え履修不成立になるケースが目立つ。今後とも早期に粘り強く個別指導を行い、履修不成立になるケースが減少するようにしたい。</li> </ul>				

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

重点項目	学校生活	
重点課題	① 安全意識の高揚、適切な「スマホ」利用に対する意識高揚	② 基本的な生活リズムを考えさせることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校時や休み時間にスマホを操作しながら移動する「ながらスマホ」の生徒が多く見られる。事故の被害者にも加害者にもなり得る状況である。生徒自身が「ながらスマホ」の危険性を十分に理解し、安全意識を高める必要がある。また、授業時間以外に「スマホ」が手放せない生徒が多くいる。「スマホ」の長時間利用による健康被害も周知しながら、校内での友人とのコミュニケーションの時間を大切にするように意識させたい。</li> <li>生活リズムの乱れから、倦怠感等の体調不良を訴える生徒や遅刻や欠席をくりかえす生徒が見られる。体の不調が心の健康に影響を及ぼすケースもあり、生徒自身が心と体の健康やつながりについて考え、心身の健康保持増進に有効な習慣を身につける必要がある。</li> </ul>	
達成目標	① 生徒の自己評価による(1)「ながらスマホの危険性を理解し、普段の行動に改善が見られた」と(2)「年度当初に比べ校内でのスマホ利用時間が減った」の回答する割合  いずれも 70%以上	② 生徒向け研修「心と体の健康講座」に対する事後アンケートにおいて、ストレスマネジメントの必要性、命の大切さを学ぶ講座を通じて「心身の健康保持に対する意識が高まった」と回答した割合  70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校生徒対象に交通安全教室を実施し、「ながらスマホ」の危険性について理解を深めるとともに、命の大切さと交通ルール遵守への意識を高める。</li> <li>スマホに関するアンケート調査を実施し、生徒の実態を把握する。</li> <li>事故を未然に防ぐため、日々の場面毎の声かけ、全校集会や年次集会等の様々な機会を通して普段の行動を振り返る場面を設け、安全意識の定着を図る。</li> <li>日々の場面毎の声かけ、ポスター掲示や動画、ユーチューブ等を活用し、「スマホの使用マナーや「デジタルデッドクスの意義」について考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心と体の健康やそのつながりについての理解を深め、生きる力として必要な心身の健康保持増進に有効な習慣について生徒が自ら考え、学ぶ機会として、生徒向け講座を企画・実施する。</li> <li>専門家や関病経験者などによる講座を通して生徒が自己理解を深め、ストレスマネジメントなどの必要性や命の大切さを実感できる機会を得られるようにする。</li> <li>生徒が相談室を利用しやすい環境を作るため、「新入生カウンセラー面談」(全員対象)などの取り組みと合わせ、スクールカウンセラーを講師に起用した講座を実施する。</li> </ul>
達成度	① (1) 36.1% (2) 27.9%	② 87%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室で「ながらスマホ」が被害者だけでなく、損害賠償を伴う加害者にもなる等の話を聞いた。</li> <li>スマホに関するアンケート結果を分析し、考察を記載したプリントをクラス掲示した。また、担任や生徒指導部長が結果について話をした。</li> <li>長期休業前の生徒集会で、「自転車の安全走行やヘルメットの着用の勧め」「スマホ等の適切な利用」等の話をした。また、大音量で音楽を聴きながらの自転車運転者や廊下での「ながらスマホ」利用者への個別の声かけを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各年次の生徒の実態に即した講座を実施するため、年次担当者と保健厚生部が連携し生徒の実態把握に努め、発達段階や抱える課題に合った講座となるよう、内容・活動形式・時期などを検討した。□</li> <li>講座実施後、講座内容についてまとめた掲示物を作成したり、講座に関する資料を専用ファイルに保存させたりするなど、生徒の振り返りや学びの系統化を支援した。</li> </ul>
評 価	C まずは実態把握できて良かったが、目標達成には更なる工夫や働きかけが必要	A 目標を達成した
学校評議員の意見	アンケート結果をさらに分析し、スマホ利用時間減少の要因や長時間利用の背景を把握し、方策に反映して欲しい。安全面からも「ながらスマホ」の危険性やヘルメット着用の意義を啓発して欲しい。	関係分掌が連携し、生徒の実態に即した各種講座は評価できる。今後は生徒がSOSを発しやすい環境と教職員の早期発見・対応の体制整備もお願いしたい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室後に振り返りシートなどを活用し、安全意識の定着を図りたい。</li> <li>意識変化・行動変化により「ながらスマホ」「校内でのスマホ利用時間」が減った生徒もいたことは良かったが、目標の数字にははるかに及ばなかった。</li> <li>アンケート結果等を参考資料として、生徒自らに考えさせ「校内でのスマホ利用ルール」を教員、保護者とともに共同で作成できればよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを取り巻く環境が複雑化するにつれ、ストレスや悩みを抱える生徒の増加、問題の深刻化が懸念される。そういった生徒に対しては、心のケアや問題改善に取り組むだけでなく、生徒自身が自分を大切にすることや命の大切さなどについて学ぶ機会が十分に与えられる環境づくりが必要である。</li> <li>生徒の変化を見逃すことなく、生徒が抱える様々な問題(ヤングケアラー、虐待、発達障害など)の早期発見・対応のための体制の充実に努める。</li> </ul>

重点項目	<b>進路支援</b>		
重点課題	<b>適切な進路目標を設定し、進路実現に必要な能力の育成を図る</b>		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持っていない生徒が見られる。</li> <li>・ 進路実現に必要な基礎学力および一般常識、マナーが不足している生徒が見られる。</li> <li>・ 進路決定に向けて特別な支援を必要とする生徒が見られる。</li> </ul>		
達成目標	① <b>卒業予定者の進路目標達成率</b>  <b>100%</b>	② <b>1月の進路希望調査で、進学・就職を明確にできる生徒の割合</b> <b>1年次75%以上 2年次90%以上</b>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進路特別講座（進路ガイダンス、社会人講話、上級学校・企業見学会、先輩講話）およびインターンシップを事前・事後指導を併せてきめ細かく行う。また、進路ノートの活用を各年次に周知徹底し、段階的に情報を蓄積することにより、目標とする進路を明確にする。</li> <li>・ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や校務運営委員とも連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を個別に実施し、社会人として求められる基本的なマナー、コミュニケーション能力および自己表現力を身に付けるよう指導する。</li> <li>・ 基礎学力コンテストやキャリアアッププロジェクトの実施を通じて、進路実現に必要な学力の育成を図る。さらに、進路決定者においても進学・就業意欲を継続させ、進路先への円滑な移行を目指す取り組みを行う。</li> <li>・ 特別な支援が必要な生徒には、年次をはじめ通級指導担当教員や保健厚生部と連携し、適性に十分配慮したアドバイスを行う。</li> </ul>		
達成度	① <b>卒業予定者の進路目標達成率</b>  <b>88%</b> 【就職17名】 【進学5名】	② <b>進学・就職を明確にできる生徒の割合</b>  【1年次】 <b>97%</b> 【2年次】 <b>95%</b> (1/10現在)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3・4年次対象の進路ガイダンス（6月）への2年次希望生徒の参加、1・2年次対象の進路ガイダンス（1月）への来年度の4年次生の参加など、柔軟な対応を行った。</li> <li>・ 4年ぶりに先輩講話と学校・企業見学会を実施することができた。企業見学（2社）に40名、学校見学（3校）に36名の生徒が参加した。</li> <li>・ インターンシップの実施においては、生徒の希望を調査した上で実習先を選定するなど、生徒にとってより充実した体験となるよう配慮した。</li> <li>・ 3年次の就職希望生徒、および2年次の卒業予定生徒全員がJST面談を行った。また、就職試験対策においては校務運営委員を加えての面接練習を実施した。</li> <li>・ 特別な支援が必要な生徒には外部機関の協力を得ながらチーム支援を行い、生徒の実態に即した進路目標達成を実現することができた。</li> </ul>		
評 価	<b>B</b>	<b>目標をほぼ達成した</b>	<b>A</b> <b>目標を達成した</b>
学校評議員の意見	進路意識が希薄な生徒が見られる現状での粘り強い取り組みや生徒の志望や適性に応じたきめ細かい個別指導は評価できる。外部機関との連携により、特別な配慮が必要な生徒の進路目標が実現された点は大きいと評価する。		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職希望者への支援は、早い時期から年次職員を中心としながら、JSTや校務運営委員と連携して、学校全体で行う必要がある。また内定後についても、就業への意欲を継続できるような指導が必要である。</li> <li>・ 次年度以降、就職希望者の増加が見込まれるため、会社選びや就職試験対策などより充実した取り組みが求められる。</li> <li>・ 特別な支援が必要な生徒への本校での対応等について、保健厚生部の協力も得ながら呉西地区の支援機関とネットワークを形成することができた。今年度のモデルケースを土台として、今後も支援機関・企業・進学希望校と十分情報交換を行い、進路指導に当たる必要がある。</li> </ul>		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

重点項目	特別活動			
重点課題	① 学校行事への積極的な参加と達成感		② 図書館の有効な活用	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>人とのコミュニケーションや集団活動そのものに苦手意識を持ち、学校行事への参加に消極的であったり、参加できなかつたりする生徒が見られる。また、生徒数の増加に伴い、一人一人への配慮がより必要となっている。</li> <li>生活環境の変化や様々なメディアの発達・普及などを背景に「読書離れ」が進んでいる。読書の習慣化や質の向上を図るための支援が必要である。</li> </ul>			
達成目標	① 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ、となみキャンパスフェスティバル)の事後アンケートで「楽しかった」「達成感を得られた」と回答した割合 いずれも 90%以上		② 1年間の貸し出し冊数 一人1冊以上 全校生徒の60%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>校訓「発見、挑戦、創造」に基づき、学校行事への積極的な参加を促す。</li> <li>生徒会が主体となり行事の企画・運営を行う。</li> <li>生徒自身の学校行事における役割の自覚を促し、一人一人が達成感を持てるような配慮や働きかけを行う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒のニーズに応じた図書を準備する。</li> <li>図書委員によるイベントを企画するなど、来館者を増やすための取り組みを行う。</li> <li>図書の展示方法を工夫し、読書への興味・関心を高める。</li> </ul>	
達成度	① 「楽しかった」、「まあまあ楽しかった」と回答 96.9% ※「達成感を得られた」は設問から除外		② 45.8% (長欠者を除く) ※一人あたりの貸出冊数 2.3冊	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部が主体となって、生徒の意見を反映できるよう、行事前のアンケート実施や企画・運営を行い、コロナ禍後の行事としてより活気あるものとなった。また、本校創立百周年記念行事も重なる中、より盛大な行事となるように工夫し活動した。</li> <li>各行事で生徒各自の役割を自覚させることで人間関係作りや責任感育成につながり、充実度が増した。</li> <li>アンケートの質問項目の統一化を図り、行事当日にアンケートを実施した結果、アンケート回収率は77.2%となり、昨年度よりも回収率が改善できた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の年間貸出冊数は613冊(1/10付)。昨年に比べ、増加している。(R3:333冊、R4:341冊)生徒の利用者数は50名、貸出冊数255冊だった。</li> <li>図書委員会では、本のポップや掲示物づくり、図書整理、「図書館ニュース」の編集発行などを行った。また、キャンパスフェスティバルでも、生徒が作成したポップの人気コンテストを実施し、本の魅力をアピールした。</li> <li>今年度は放課後「教養講座」を実施し、授業以外の幅広い知識・教養を提供する会を開催した。図書館の利用者向上の一助とした。</li> </ul>	
評 価	A 目標を達成した		B 目標は達成していないが、生徒一人あたりの貸出冊数は増えている	
学校評議員の意見	生徒が多様な中での学校行事は、運営の難しさはあるが、アンケート結果をもとに工夫を重ねて欲しい。集団活動が苦手な生徒には成功体験が積めるよう働きかけて欲しい。		読書への興味・関心を高める様々な企画は工夫が見られ評価できる。幅広い知識や教養を身につけることが自身の再発見にもなる。図書館が生徒の居場所の一つになれば良い。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数の学校であるため、状況に応じて学校行事の在り方や企画・運営について工夫、検討を重ねて行うことが必要。</li> <li>集団活動が苦手な生徒が多い。社会での自立を目標に、様々な行事において年次や教職員と連携し、高校生としての自主性を育むことを図りながら企画・運営をしていきたい。</li> <li>各行事のアンケートについて、参加者からの回収率を上げるべく改善していきたい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>購入図書の選定、館内のディスプレイ、各種イベントでは今後も生徒目線で企画し、生徒から生徒へ発信する形で活動できるよう指導していきたい。</li> <li>イベントや図書委員の取組みについて、全校生徒へ周知するための広報の仕方を検討していきたい。</li> <li>「一人一冊運動」を定着していくために、夏休みや冬休み前には読書指導をし、読書量向上を図りたい。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

重点項目	<b>その他:総合福祉科学習指導</b>	
重点課題	<b>専門科目への意欲的な学習</b>	
現 状	指導目標である「地域で活躍する人材の育成」に向けて、福祉のあり方や介護の知識・技術の修得への意欲が十分でない生徒が見られる。	
達成目標	<b>授業及び地域との交流活動を通じて福祉分野への興味関心が深まった生徒の割合70%以上</b>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の授業で学習した専門科目の知識・技術を地域の交流活動に活かすことで、今後の専門科目の学習にさらに意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>地域の交流活動に参加することで、生徒の福祉分野に対する興味関心が深まるようにする。</li> <li>活動報告会を実施し、今後の専門科目への意欲向上や技術向上に役立てる。</li> <li>個別の配慮を要する生徒の支援を工夫する。</li> </ul>	
達成度	<b>93.3%(アンケートで「とても深まった」、「深まった」と回答した生徒の割合)</b>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>南砺市のグループホーム利用者の方に来校していただき、生徒との交流活動を複数回、全年次で実施した。</li> <li>生徒が小矢部市や南砺市の施設を訪問し、高齢者や障害者、小学生など地域の様々な年齢の方と交流することができた。</li> <li>2年次は7名全員でのトーンチャイム演奏やレクリエーションの企画、準備、実施を通して、高齢者や障害者への理解を深めた。さらに友人と協力して行うことで達成感を得たと回答する生徒が多かった。</li> </ul>	
評 価	<b>A</b>	<b>達成できた</b>
学校評議員の意見	様々な年齢層との交流が、知識や技術習得の意欲につながるよう工夫があり評価できる。今後も交流を継続し、利用者と支援者双方の理解につなげて欲しい。ボランティアコーディネーターが配置されている社会福祉協議会の活用も考えられる。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフターコロナの中での実施で、どのようなボランティアが実施できるか手探り状態だったため、年間を通しての予定を示すことができなかった。次年度は年度初めに予定を作成して活動していきたい。</li> <li>初めての活動が多く、施設との調整に労力を要する部分があった。連絡を円滑にして生徒と交流先が有意義な時間を過ごせるようにしていきたい。</li> <li>総合福祉科の特性や活動内容を十分に理解しないまま入学してきている生徒も在籍するため、これまで以上、外部へ総合福祉科の活動を紹介していく必要がある。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)